



芝口御門は海から江戸に入る一番の芝口見附門で宝永 7 年 (1710) 朝鮮からの聘使 (外交使節団) が来るのに合わせ、新井白石の提案で日本国の威厳を保つために石垣と合わせて立派な御門を造成したという。

当初は新橋 (あたしばし) と呼ばれていた。現在の新橋の地名の発祥地である。

新橋駅近くでちょっと寄り道して、明治時代の**旧新橋停車場跡**に寄る。

旧新橋停車場跡



この遺跡は汐留再開発時に発掘された。

この新橋停車場跡は明治 5 年 (1872) に新橋から横浜間を走った蒸気機関車の旧駅舎で平成 8 年 (1996) 再建され、プラットホーム、レールの一部も復元された。

この場所は伊達藩 (松平陸奥の守) の上屋敷があった所で明治維新の時に政府が没収した。広大な敷地が新橋停車場ホームに相応しかつたのであろう。

更に進むと右側に**芝大神宮**がある。



旅立ちの 無事を祈りて 守護手形



芝大神宮は寛弘 2 年 (1005) 伊勢の内宮、外宮のご分霊を祀り、鎮座された古社で、関東のお伊勢 (芝神明) 様と呼ばれ、各時代の武将は戦勝祈願に、江戸から旅立つ人はここで道中の無事を祈願、帰った時はお礼の参詣と賑わった所。

参考：天照皇大御神を祀る神社が「神明」さまである。

私はここで東海道五十三次守護手形を購入した。守護手形のお陰か何事もなく完歩できた。東海道歩きをされる方はここで守護手形を購入して道中歩かれることをお勧めします。

芝大神宮の奥に**増上寺**がある。

増上寺は上野の寛永寺と共に徳川家の菩提寺で、徳川将軍六代【秀忠 (二代) 家宣 (六代) 家継 (七代) 家重 (九代) 家慶 (十二代) 家茂 (十四代)】の霊廟がある。



参考までに寛永寺には徳川将軍六代【家綱（四代）、綱吉（五代）、吉宗（八代）、家治（十代）、家斉（十一代）、家定（十三代）】の霊廟がある。

何故、歴代将軍が大きく寛永寺と増上寺に分けて祀ってあるのか単純な疑問が生じた。

早速調べてみた。簡潔にまとめると元々徳川家は浄土宗、家康以後天台宗を帰依した結果、菩提寺が増上寺（浄土宗）、寛永寺（天台宗）の2寺となり四代目以降原則交互に祀ったようである。

他に家康（初代）は遺言で久能山に1年祀ったのち日光東照宮に、家光（三代）は家康を大変尊敬していたので本人の希望で法要を寛永寺で行ったのち日光の天台宗のお寺、**輪王寺**へと埋葬された。また、慶喜（十五代）は神道式の埋葬を希望したので谷中霊園に埋葬されたという。

更に進むと田町あたりになるが街道左側に**西郷隆盛・勝海舟会見の地碑**がある。戊辰戦争で江戸城総攻撃の前日の慶応4年（1868）3月8日に、ここの薩摩藩の屋敷内で西郷隆盛・勝海舟が会談し「慶喜隠居の上、水戸にて謹慎すること」「江戸城は尾張家に預ける事」等の条件で決し、江戸城無血開城となった。



（東海道を西進するとこの件で山岡鉄舟が下打ち合わせに苦勞した事実（望嶽亭、駿府の旅籠）が出てくる、楽しみに歩を進めてください。）

私としては西郷隆盛と勝海舟が会見し、江戸城無血開城を決め、江戸を灰にしなかった歴史的な決断の場所として**薩摩藩蔵屋敷跡**が印象に残った。

昔は芝四丁目あたりから東海道は海岸線を歩いた事が古地図からもわかる。

札の辻とは大通りの交差する辻で、当時は東海道から江戸への正面入り口で、人の往来の多い所だったのであろう。高札が建てられていた。今も日本橋方面と赤羽橋方面の分岐点である。



札ノ辻の右側には**元和のキリシタン殉教碑**がある。

元和9年（1623）イエズス会のデ・アンジェリス神父、フランシスコ会のガルベス神父、ジョアン原主水をはじめとする50人が火刑によって殉教したと記されている



更に進むと左側にこの街道初めてのこんもりとしたところに石垣だけが残されている**高輪大木戸跡**がある。

宝永 7 年 (1710) 芝口門に江戸の市中と外部との境に塚を築き木戸を設けていたが、享保 7 年 (1724) 現在地高輪に道幅約 6 間 (約 10m) の東海道の両側に石垣を築いた高輪大木戸を設け、夜間通行禁止、治安の維持と交通規制の機能を持たせた江戸の南の入口とした。また天保 2 年 (1831) に札の辻からこの地に高札場も移された。わずか 14 年で江戸の町が大きく拡大していった様が窺える。

江戸が当時百万人の大都市になっていった様が垣間見えた。



高輪大木戸跡

次に**泉岳寺**が右側にある。



泉岳寺は赤穂浪士 47 士が元禄 12 年 (1702) 12 月 14 日に両国の吉良邸に討ち入り、主君の仇を討ったのち赤穂浪士 47 士はここまで歩いてきた所で翌年元禄 13 年 2 月 4 日切腹を命ぜられ、当地に葬られた。境内には赤穂藩主、浅野家の墓と大石内蔵助ら四十七士の墓が一区画に祀られている。



赤穂藩主墓

47 士は本懐を遂げ両国の吉良邸からこの泉岳寺まで随分長い距離を歩いている。その時の彼等の胸の内は！！と考えつつ参拝した。

泉岳寺は忠臣蔵で知られるようになったのか江戸の川柳に「それまでは ただの寺なり 泉岳寺」とある。確かに高輪の大木戸の外であると一人合点する。

次に高輪には幕末に英国公使館がおかれたという**東禅寺**があった。

門を潜ると趣のある雰囲気です。今までは違った古刹である。全く知らなかった私としては新鮮なお寺である。

東禅寺は臨済宗妙心寺派、仙台藩主伊達家、岡山藩主池田家等の菩提寺で臨済宗妙心寺派の江戸触頭であった。立派な三重の塔もありなるほどと思わせる佇まいである。

文久元年 (1861) 5 月に尊王攘夷派の水戸藩浪士に翌二年五月には松本藩士により東禅寺襲撃事件があったとう刀傷が残っていた。あまり知られていないかもしれないが寺内は威厳あり三重塔等必見である。



東禅寺



第 1 回の終点品川駅着



品川駅前には明治5年5月7日品川駅創業記念碑がある。鉄道開通80周年記念として昭和28年4月に建立された碑で揮毛者は当時の衆議院議長の大野伴睦氏である。

新橋・横浜間の開通を目指したが新橋・品川間の工事が遅れたため、やむおえず明治5年5月7日（新暦6月12日）に品川・横浜間で仮開業した。最終的に新橋・横浜間の本営業は明治5年9月12日（新暦10月14日）だった。今日10月14日は「鉄道の日」とされている。品川駅は日本一古い鉄道の駅である。

雑感

日本橋、品川間は東海道は大江戸八百八町の古地図と対比してみると、街道が主要道路に、川、濠は一部を埋め立て現代の車社会に対応しているし、昔の町人の町の区割りをほとんど生かしつつ、一部道を拡幅するなどして徐々に変貌させていった所が随所に見られる等新しい発見があり楽しい。近代化された街は旧東海道の雰囲気は感じられないが歩かなければ出会えない**史跡標示**が多い、断片的な史実を関連付けていくと強く記憶に残るものが多々あった。歩いて尋ねる面白さを感じた区間となった。

東海道 残るは道と ^{しゃ}社・^じ寺・^{せきひ}石碑

東海道 歩いて満つる 新史実

東海道を歩いてみて色々な江戸時代の史実に巡り合ったが 270 年も続いた徳川時代である。なかなか繋がらないので年代順に整理してみた。

第 1 回（日本橋～品川）の東海道筋訪問先の事象年表

西暦	和暦	記事
1005	寛弘 2 年	芝大神宮は一条天皇の御代に伊勢の内外宮を勧請して創建した。
1590	天正 18 年	家康江戸に入城。
1596	文禄 4 年	家康は彫金師・後藤庄三郎光次に金貨の鑄造を命じ、後藤家が代々金座を統括した。
1600	慶長 5 年	関ヶ原の戦いで徳川家康勝利
1601	慶長 6 年	家康が五街道（東海道、中山道、甲州道中、日光道中、奥州道中）に伝馬制度を敷く。
1603	慶長 8 年	徳川家康開幕、江戸の造成に取り掛かる、日本橋を架橋し 5 街道の起点とした。1 里=36 町、1 町=109m (1 里≒3.9 k m) に統一、一里塚や松並木を設置し五街道の整備を進めた。
1612	慶長 17 年	駿府にあった銀座役所を江戸に移す。両替屋等を含めて「新両替町」と名付けた。新両替町 1 丁目から 4 丁目（今の銀座 1 丁目から 4 丁目まで）がつけられている。
1617	元和元年	大坂夏の陣で豊臣家滅亡、今迄管理していた日本橋から京都三条大橋（53 宿 126 里 6 町 1 間（約 495 k m）の東海道五十三次だったのが日本橋から大阪高麗橋まで 57 宿 137 里 4 町 1 間（約 538 k m）いわゆる東海道五十七次となった。
1623	元和 9 年	キリシタン信徒、イエズス会のデ・アンジェリス神父、フランシスコ会のガルベス神父、ジョアン原主水をはじめとする 50 人が札の辻で火刑にされた。
1624	寛永元年	中村勘三郎（初代）が江戸の中橋南地（現在の京橋）に江戸歌舞伎を創設した。
1629	寛永 6 年	常盤御門の前に常盤橋が設置された。
1636	寛永 13 年	江戸城の外堀が造られた
1664	寛文 4 年	水運の良い京橋川に野菜売場として京橋大根河岸青物市場が設けられた。
1702	元禄 12 年	12 月 14 日に赤穂浪士 47 士が両国の吉良邸に討ち入り、翌年元禄 13（1703）年 2 月 4 日切腹を命ぜられ、泉岳寺に葬られた。
1710	宝永 7 年	海から江戸に入る一番の芝口見附門に朝鮮からの聘使（外交使節団）が来るのに合わせ、新井白石の提案により石垣と立派な芝口御門が作られた。
1710	宝永 7 年	江戸の市中と外部との境に高輪大木戸を設け夜間の通行を禁止した。

西暦	和暦	記事
1717	享保 2 年	数寄屋橋御門の近くの南町奉行所には大岡越前守忠相が享保 2 年 (1717) ~元文元年 (1736) 奉行として執務していた。
1805	文化 2 年	芝大神宮で町火消「め組」と相撲取りの喧嘩「め組の喧嘩」の事件が発生。
1806	文化 3 年	呉服橋門内に北町奉行所が設置され幕末までであった。
1833	天保 4 年	歌川広重が保永堂から出版した「東海道五拾三次之内」が大ヒットし一躍風景画家の地位を確立する。
1840	天保 11 年	呉服橋御門の近くの北町奉行所には「遠山の金さん」こと遠山左衛門尉景元が天保 11 年~14 年 (1840~1844) 奉行として執務していた
1849	嘉永 2 年	歌川広重旧宅跡は浮世絵師歌川広重が嘉永 2 年 (1849) から安政 5 年 (1858) 9 月に亡くなるまでの 10 年間を大鋸町に住んだ住居跡である。
1859	安政 6 年	幕末に最初のイギリス公使館が東禅寺に置かれた。
1861	文久元年	尊王攘夷派の水戸藩士、翌 2 年には松本藩士による東禅寺襲撃事件が発生。
1868	慶應 4 年	戊辰戦争の折、高輪の薩摩藩邸で旧幕府の陸軍総裁・勝海舟と総督府参謀の西郷隆盛が会見、江戸城総攻撃を中止し。江戸城無血開城が実現する。
1872	明治 5 年	新橋から横浜間を蒸気機関車が走った。
1911	明治 44 年	現在の日本橋 (石造 2 連アーチの道路橋) が架けられた。
1967	昭和 42 年	日本橋の中央の道路元標は都電廃止に伴いプレートに変更して中央に埋める
1996	平成 8 年	旧新橋停車場が再建され、プラットホーム、レールの一部も復元された。